

計画期間延長に係る追加施策等への御意見

1 計画の記載内容を修正するもの

項目	御意見	修正箇所	修正内容・対応等
1 はじめに	<ul style="list-style-type: none"> ・ 厳しい財政状況など全体的に後ろ向きな印象になっているので、もっと前向きな表現にすべきである。 ・ 基本計画との整合性を図ることや、ウイズコロナ社会での可能性の探索、重点戦略の深化などを記載すべき。また国の第3期スポーツ基本計画も重要な流れであり記載する必要がある。(長積委員長代理) 	追補版 p 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画延長の理由の先頭に「ウイズコロナ・ポストコロナ社会でのスポーツ振興の在り方について検討を進める必要があること」を記載 ・ 期間延長に当たり、本計画の目標を京プラン 2025 で進化させた目標に合わせることや、国の第3期スポーツ基本計画の検討状況、重点戦略についても深化を図ることを記載
3 社会状況の変化と新たな課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の第3期スポーツ基本計画でも記載されている以下のキーワードを盛り込むべき スポーツの成長産業化 スポーツのDX 共生社会 など (松永委員長, 長積委員長代理) 	追補版 p 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会状況の変化に追記
	<p>ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アーバンスポーツだけでなく、パラスポーツにも関心が高まっている ・ ワールドマスターズゲームズ2021関西の再延期についてはタイトルに加えたうえで、項目として、今後の機運醸成に向けた取組についても記載すべき (松永委員長) 	追補版 p 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ パラスポーツへの関心の高まりを追記 ・ タイトルに「ワールドマスターズゲームズ2021 関西の再延期」を追記のうえ、項目を追加し、機運醸成に向けた継続的な取組を記載
4 市民スポーツ振興の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「(1) 目指すべき姿」について、「京プラン2025に掲げる目標を本計画の目標にするとしているが、その評価について、「する」「みる」「支える」で構成されている数値目標以外に別途必要ではないか。(松永委員長, 長積委員長代理) 	追補版 p 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数値目標に加え、市民生活実感評価により確認することとし、「(2) 目標の実現に向けた取組の推進と評価手法」に「イ 市民生活実感評価」の記載を追加

4 市民スポーツ振興の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標のところ、京プラン 2025 に掲げる目標、また重点戦略についてもゆるやかな目標でもいいので何か設定できないか。(松永委員長, 長積委員長代理) 	追補版 p 4	<ul style="list-style-type: none"> ・京プラン 2025 に掲げる目標について、「イ 市民生活実感評価」において、より良い評価を得られることを目指すことを記載 ・重点戦略(特にソフトウェア, ヒューマンウェア)は、現時点で今後の進め方を検討中であり、現時点での目標設定は難しい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標のところ、目標の達成に向けて、京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議で進捗状況を確認しながら取組を進めることを改めて記載した方がよい(長積委員長代理) 	追補版 p 4 p 8	<ul style="list-style-type: none"> ・「ア 数値目標」の本文下から 2～3 行目に「京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議において進捗状況を確認しながら、目標達成に向けて取組を推進する」ことを追記 ・最終ページに「7 今後の展望について」を設け、長期的展望と必要な取組について、団体との意見交換や推進会議での議論を重ね、検討を進めることを追記
5 追加施策(全般)	<ul style="list-style-type: none"> ・追加施策等について、本計画に掲げた目標(京プラン 2025)に掲げた 2025 年の姿の実現に向けて取り組むことを、より強調して記載した方がよい。(松永委員長, 長積委員長代理) 	追補版 p 5	<ul style="list-style-type: none"> ・「5 追加施策等」の本文の 4～7 行目に追記
	<ul style="list-style-type: none"> ・財政難だけを理由とした延長に受け止められないよう、メッセージ性のある施策を盛り込む必要がある。課題解決型ではなく新たな需要を創造する施策がないか。(長積委員長代理) ・課題解決に終始しており、未来志向的でない。京都市のまちづくりをスポーツ振興によってどう実現したいのか、ワクワク感を計画に盛り込むべき。市民社会の姿をバックキャストで捉えた計画にできないか。(長積委員長代理) 	追補版 p 5	<ul style="list-style-type: none"> ・「都市の成長戦略につながる取組の推進」については、スポーツと他分野との連携・マッチングの推進等による、新たな価値の創造、地域活性化につなげる未来志向的な取組であり、各施策及び重点戦略に取り組むに当たっての「共通の視点」として位置付け。
	<ul style="list-style-type: none"> ・横断的な視点の意味が分かりにくい。(長積委員長代理) 	追補版 p 5	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の推進に当たり基本として踏まえる「共通の視点」として修正

5 追加施策 (共通の視点)	<ul style="list-style-type: none"> ・「共通の視点」の「市民のスポーツへの関心と機運の高まりを捉えた市民スポーツの振興」の内容について、東京2020オリンピック・パラリンピックだけでないため、「国内外のスポーツイベントなど」を追加すべき（松永委員長） 	追補版 p 5	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外でのスポーツイベント開催等の機会を的確に捉えて、市民スポーツの振興につなげる旨を追記
5 追加施策 (案)について	<p>追加施策「新型コロナウイルス感染症対策の推進」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ収束後を見据えた施策とすべき（川端委員） ・今後新たな感染症が流行した場合に備えて、感染症『等』を加えてはどうか（喜賀委員） ・この施策名では、コロナ対策によって何を推進したいのかが分からない（田中均委員） 	追補版 p 5	<ul style="list-style-type: none"> ・施策名を「ウイズコロナ・ポストコロナ社会での市民スポーツの振興」に修正
	<ul style="list-style-type: none"> ・「する」「みる」「支える」のそれぞれに係る施策については、それぞれの項目に記載しないと伝わらない（松永委員長） ・例えばコロナ対策は「する」だけでなく、「みる」「支える」にも入ってくるのではないかと（長積委員長代理） 	全般	<ul style="list-style-type: none"> ・「する」「みる」「支える」の複数に係る追加施策については、それぞれの項目に再掲として記載
5 追加施策 の取組内容 について	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民が安心・安全にスポーツ活動に取り組める環境の提供」とあるが、身近な環境の提供に努めてほしい（田中均委員） 	追補版 p 5	<ul style="list-style-type: none"> ・「ウイズコロナ・ポストコロナ社会での市民スポーツの振興」の取組内容について、「市民が『身近で』安心・安全にスポーツ活動に取り組める環境を提供する。」に修正
	<ul style="list-style-type: none"> ・「する」「みる」「支える」に大きな役割を果たしている京都マラソンについて、3年ぶりとなるフルマラソン大会開催に向けて、取組内容に位置づける必要がある（松永委員長） 	追補版 p 6	<ul style="list-style-type: none"> ・「ウイズコロナ・ポストコロナ社会での市民スポーツの振興」の取組内容に京都マラソンを追加

5 追加施策 の取組内容 について	・「プロチームをはじめとする地域密着型スポーツチームと連携した地域活性化の推進」については、プロスポーツに感化されてスポーツを行うなど、「する」要素にも関係するため、取組内容についてそれを踏まえたものに修正した方がよい（松永委員長）	追補版 p 6	・取組内容のところに、「市民と共に盛り上げることを通じて市民スポーツの振興を図る」を追記したうえで、「する」にも新たに位置付け
	・運動部活動改革については、指導者の質の確保も重要。指導力を上げるなど、ソフト対策も強化する必要がある（教育委員）	追補版 p 6	・「運動部活動改革の推進と地域における子ども・若者のスポーツ機会の充実に向けた検討」の取組内容に、「指導力向上」を追記
6 重点戦略	・重点戦略について全体的にもう少し詳細な内容を記載すべきである（松永委員長）	追補版 p 7	・重点戦略全体として、これまでの取組経過や今後の取組の方向性等について現時点で記載できる内容を追記
	ハードウェア（スポーツインフラ京都）について ・施設整備に限定するのではなく、施設の効率的な運営についても記載すべき（松永委員長）	追補版 p 7	・指定管理者と連携した柔軟な施設運営に取り組んでいることを記載
	ソフトウェア（スポーツウェブ京都）について ・具体的な取組の記載が難しい場合も、「プラットフォームなど仕組づくり」については記載してほしい（松永委員長）	追補版 p 7	・必要な情報にアクセスしやすく、情報を容易に入手できるプラットフォームなどの仕組づくりを進めることを追記
	ヒューマンウェア（スポーツリエゾン京都）について ・リエゾンについては、プラットフォームづくりが重要であり、どう取り組むのかも含めて記載が必要（松永委員長）	追補版 p 7	・「スポーツ関係団体や民間企業、大学等の間の情報共有や連携の促進に向けた懇談会を開催するなど、プラットフォームづくりに取り組んでいく」に追記・修正

2 資料等に関する御意見

項目	御意見	修正内容
追補版	・現行計画と追補版を別に分けるのは、分かりにくい。現行計画に修正内容を書き込むなど、分かりやすい発信の仕方を考える必要がある。（松永委員長）	・現行計画に修正内容を反映させた資料について、今後調整を進める。

3 今後の進め方・検討に当たり参考とさせていただく御意見

項目	御意見
アーバンスポーツを楽しめる環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・スケートボードは練習場所の整備や子ども達が遊べる場所を早急に整備してほしい。(前川委員) ・スケートボードが市内でありすぎる場所がない。市の財政状況も厳しいため、民間企業とも連携しながら整備を進めてほしい。(教育委員) ・スケートボードについて、人通りが多い場所での使用に対する苦情も多いため、現場で対応する警察から練習場所を設置している旨を伝えてもらう等、連携した啓発をお願いしたい。(市会文化環境委員会委員) ・ブレイクダンス等の実施場所確保において、地下鉄駅の構内(サブウェイパフォーマー)等を活用してはどうか。(市会文化環境委員会委員) ・アーバンスポーツの競技場所を確保する際には、現状使用しているスポーツができなくなるなど、既存スポーツ関係者が不利益を被らないように取り組んでほしい。(市会文化環境委員会委員) ・近隣市町村の取組状況も踏まえ、どのスポーツを振興するのか打ち出してもよいのではないかと。(市会文化環境委員会委員)
ウイズコロナ、ポストコロナ社会での市民スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にスポーツや体操などの健康づくりができる環境整備が大事。身近な公園での新たな健康遊具の設置なども進めてほしい(田中均委員)
ICTを活用したスポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用できない高齢者等が、安心安全に体操等ができる場の提供が必要(喜賀委員) ・高齢者などICTによる情報へのアクセスが難しい世代への対応も重要(市会文化環境委員会委員) ・ICTを活用したスポーツの推進について、例えばゲーム機を使ったフィットネスの活用は子育て世代や高齢者、障害者の運動機会の確保にもつながるのではないかと。京都市・府には多くのゲーム関連企業もあるので、そういった活力も考えられる。(喜賀委員)
プロチームをはじめとする地域密着型スポーツチームと連携した地域活性化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・アウェイチームのサポーターに京都の観光地を巡っていただくために、産業観光局とも連携のうえ、効果的な情報発信や波及的な経済効果を生み出せる取組などを進めてほしい。(市会文化環境委員会委員) ・子どもたちが、プロスポーツに直接触れられる機会をもっと設けてほしい。(市会文化環境委員会委員)
体育振興会・スポーツ推進指導員の更なる活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者となっても元気な方もおられ、生きがいや地域貢献にもなるので、スポーツ推進指導員の定年制を廃止することも検討してはどうか。(市会文化環境委員会委員)
運動部活動改革の推進と地域における子ども・若者のスポーツ機会の充実に向けた検討	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会、学校現場、地元体育振興会などと連携を図り、出来る地域から取組を進めてほしい。(前川委員) ・運動部活動の推進に当たっては、科学的トレーニング、休養・食事の大切さ及びドーピング問題について、生徒が知識を身に付けられるよう学習の機会をつくってほしい。(市会文化環境委員会委員)

重点戦略	重点戦略の目標	<ul style="list-style-type: none"> 重点戦略についてもゆるやかな目標でもいいので何か設定できないか今後検討してほしい（松永委員長）
	スポーツインフラ京都	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設以外の場所においてスポーツ・運動する場所として活用する可能性について模索してほしい（松永委員長）
	スポーツウェブ京都	<ul style="list-style-type: none"> スポーツウェブのツイッター、フェイスブックが更新されていない。今あるものをもう少し活かすべき（鳥本委員） スポーツに関する情報を総合的に提供することが重要（市会文化環境委員会委員）
	スポーツリエゾン京都	<ul style="list-style-type: none"> スポーツウェブ、リエゾンを動かすには土台となるプラットフォームづくりが必要。財源確保は市で難しく、民間の力、学生の力を借りる必要がある（松永委員長） 現行計画を継続する1つの意味付けがリエゾンの存在。プラットフォームを構築し、行政、企業、関係団体、市民が参画することで、課題認識から課題解決に至るまでのプロセスに関りながら協働で進めるはずであった。現時点では十分に達成できていないため、「スポーツリエゾン」を京都市独自のモデルとして再認識したうえで、リスタートすることが、計画の継続性を意味づけるものとなる。そのため、リエゾンの構想が思うように進まなかった原因を、単に資源不足として片づけずに、再検討したうえで、政策の重点戦略として位置付けた方がよい。（長積委員長代理） リエゾンについては、ウォーキングとごみ拾い、安全パトロールと結び付けた取組を行うなど、まちづくりに関わる取組とセットになれば達成感もある。（鳥本委員） 「スポーツ団体同士のつながり・連携の充実」について、推進会議では車いすバスケの話を出したが、子どもだけでなく大人も貴重な経験となった。市全体や各行政区単位での団体同士のマッチング交流会が企画できないか。（田中伸委員）
目標	目指すべき姿	<ul style="list-style-type: none"> 京プラン2025の目標をそのまま持ってきているが、京プランは上位計画であり、分野別計画である本計画についてはその下位目標があるべきということは認識しておいてほしい（松永委員長、長積委員長代理） 目標の見直しについて、従来の目標はストレートなものであったが、見直し後の目標は、まちの魅力を高めるなど、従来より深掘りされており評価する。（教育委員）

	<p>数値目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の達成については、数値のみ追うのではなく、施策がどう結びついた結果の数値なのかリサーチの工夫が必要。(長積委員長代理) ・「する」「みる」「支える」の目標値は、コロナ前は大きく数値が伸びており評価している。様々な取組があつてこそだが、京都マラソンの影響が大きかったのではないか。(教育委員)
<p>その他</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・現行計画に「年齢や個性、環境に応じてだれもがスポーツを楽しむ機会の提供」とあるが、ターゲットについては細分化されておらず、今後の取組の中ではもう少しカテゴリーを分けて取り組むことも重要ではないか。(松永委員長) ・危機的な財政状況のもと、事業の見直しや民間活力を最大限活用して一刻も早く取組を進めてほしい。(前川委員) ・屋外運動公園の利用は、土日祝は利用者が多く、平日は少ないと感じてる。平日は利用料金を下げて思い切って利用しやすくすべきでは。部活動改革が始まれば、学校外クラブの利用もしやすくなると思う(前川委員) ・市内の公園はボールを使ったスポーツ利用ができないところが多い。建設局とも連携して、制限緩和など使用しやすくすれば、スポーツをする機会が増えるのではないか。(前川委員、市会文化環境委員会委員) ・市内で子どもがスポーツをできる場所が少ない。小学校のグラウンド等でもうまく住み分けができればよい。(教育委員) ・東山トレイルでは、ルートが途中で切れているため、迷っている人を見かける。ICTを活用し、位置情報がわかるようにするなど、産業観光局と連携して見直しをしてほしい(市会文化環境委員会委員) ・サイクリングについて、河川敷のコース等では歩行者も多く危険も多い。人と共存できるようにマナーの啓発等をお願いしたい。(市会文化環境委員会委員) ・eスポーツについては、全国的に総合支援学校でeスポーツに取り組む動きもあり、今後計画の改定などがあるときは検討いただきたい。(教育委員) ・他都市の取組も参考にしながら意見交換をするのもいい方法だと思う。(田中伸委員)